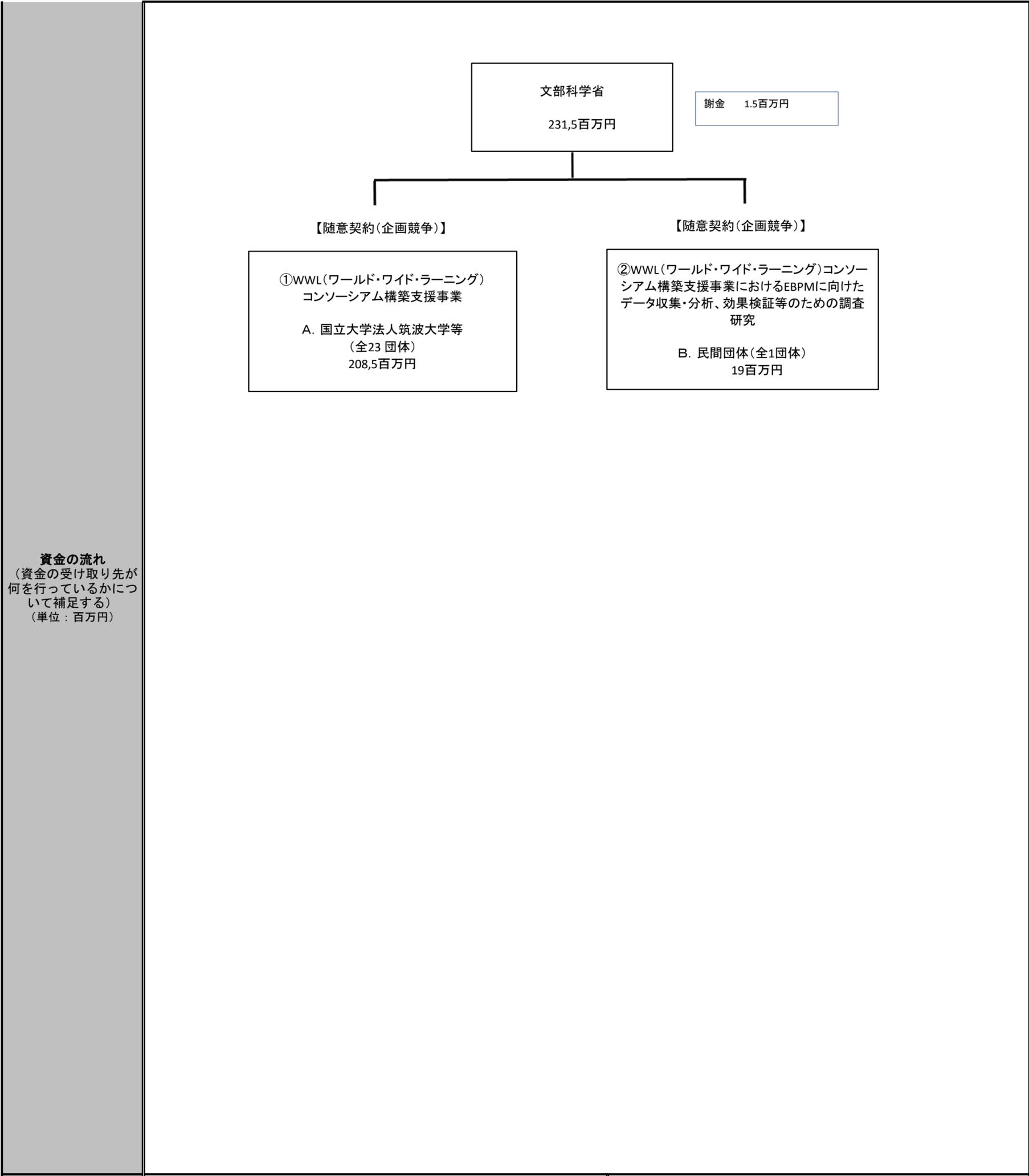


令和5年度行政事業レビューシート				( 文部科学省 )			
事業名	WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム構築支援事業		担当部局	初等中等教育局		作成責任者	
事業開始年度	令和元年度	事業終了(予定)年度	終了予定なし	担当課室	参事官(高等学校担当)	参事官(高等学校担当) 田中 義恭	
会計区分	一般会計						
根拠法令 (具体的な 条項も記載)			関係する 計画、通知等	「骨太の方針令和元年」令和元年6月閣議決定 「文部科学大臣懇談会報告書」Society5.0に向けた人材育成～ 社会が変わる、学びが変わる～ 平成30年6月5日			
政策	2.確かな学力の向上、豊かな心と健やかな体の育成と信頼される学校づくり		主要経費	教育振興助成費			
施策	2-1確かな学力の育成						
政策体系・評価書URL	https://www.mext.go.jp/content/20221215-mxt_kanseisk01-000026547-07-2.pdf						
事業の目的 (5行程度以内)	高校生に高度な学びを提供するネットワークを形成した拠点校を全国に配置し、グローバルな社会課題の解決や国際会議の開催を通じて世界的な活躍を目指す人材育成に向けたカリキュラム開発や、Society5.0をリードできる人材育成に向け大学等とネットワークで連携しAIやビッグデータ等文理横断的な内容の学びを実現するカリキュラム開発を行い、全ての高校生が生徒個人の興味・関心・特性に応じて、高度かつ多様な科目内容を履修可能とする学習プログラムに参加することができるWWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアムの構築により、幅広い教養や問題発見・解決能力等の国際的素養を身に付け、将来、新たな社会を牽引し、世界で活躍できるビジョンや資質・能力を有したイノベティブなグローバル人材を育成する。						
現状・課題 (5行程度以内)	人工知能(AI)やビッグデータ等の先端技術が高度化してあらゆる産業や社会生活に取り入れられた、いわゆる「超スマート社会」とも言われるSociety5.0における変化は、教育や学びの在り方にも変革をもたらし、学びの質を加速度的に充実させることとなる。特に高等学校は、生徒一人一人がSociety5.0における自らの将来の姿を考え、そしてその姿を実現するために必要な学びが能動的にできる場へと転換することが求められている。そのため、現状、文系・理系に分かれ、特定の教科について十分に学習しない傾向にある高等学校普通科の実態(高校の3校に2校では文系・理系のコース分けを実施、高校3年のうち、理系コースを履修する生徒32%・文系コースを履修68%※1)を改め、基本的に文理両方を学習した大学進学者の育成を目指すとともに、幅広い教養や問題発見・課題解決等の国際的素養を育成するなどの先進的な取組による世界で活躍できるグローバル・リーダーの育成を目指し、AP(アドバンスト・プレースメント)※2も含めた高度かつ多様な科目内容を、生徒個人の興味・関心・特性に応じて履修可能とする高校生の学習プログラム/コースを創設するなど、より高度の内容を学びたい生徒のための条件整備等が必要とされている。ひいては、思考の基盤となるSTEAM教育を全ての生徒に学ばせ、より多くのSTEAM人材の卵を産み出し、将来、世界を牽引する研究者の輩出とともに、幅広い分野で新しい価値を提供できる数多くの人材の輩出につなげていくことが求められている。  ※1 (出典)国立教育政策研究所「中学校・高等学校における理系選択に関する研究最終報告書」(2013年3月) ※2 ここでは、我が国において高校生が高校在学中に大学の正規科目を受講し、大学進学後に大学の単位として認定する取組等を指す(以下同じ。)						
事業概要 (5行程度以内)	本事業では、Society5.0という新しい時代に世界で活躍できるイノベティブなグローバル人材を育成するため、グローバル人材育成に向けた教育資源を活用し、高等学校等の先進的なカリキュラムの研究開発・実践と持続可能な取組とするための体制整備をしながら、高等学校等と国内外の大学、企業、国際機関等が協働し、テーマを通じた高校生国際会議の開催等、高校生へ高度な学びを提供する仕組みとして、「カリキュラム開発拠点校」を中心としたアドバンスト・ラーニング・ネットワークを形成した拠点校を全国に配置し、将来的にWWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアムの構築を目指す。「探究学習」「文理横断的な学習」「海外研修・交流」「高校生国際会議」「高大連携・先取り履修」等の実践を通じ、グローバルな視点を持ち社会課題解決する能力の育成や、開発したカリキュラムの成果普及を図る体制を推進する。						
事業概要URL	https://www.mext.go.jp/content/20230406-mxt_koukou02-100002282_01.pdf						
実施方法	委託・請負						
補助率等	-						
予算額・ 執行額 (単位:百万円) (インプット)	予算の 状況	当初予算(A)	151	251	231.5	206.2	231.2
		補正予算(B)	-	-	-	-	-
		前年度から繰越し(C)	-	-	-	-	-
		翌年度へ繰越し(D)	-	-	-	-	-
		予備費等(E)	2	-	-	-	-
		計(F) =(A)+(B)+(C)+(D)+(E)	153	251	231.5	206.2	231.2
		執行額(G)	153	239	185	-	-
		執行率(%) =(G)/(F)	100%	95%	80%	-	-
		当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%) =(G)/[(A)+(B)]	101%	95%	80%	-	-
		歳出予算項・目	令和5年度当初予算	令和6年度要求	主な増減理由(・要望額・予備費)		
(項)	初等中等教育振興費		令和6年度からは、経済財政運営と改革の基本方針、教育未来創造会議第二次提言、教育振興基本計画等を踏まえ、特にコロナ禍で限定的となった海外の連携校等への短期・長期留学、海外研修や、海外の連携校等からの外国人留学生と日本人高校生とが一緒に履修する英語等による授業等を重点的に取組む学校を指定し、グローバル人材育成に資する拠点校の整備を推進するため増				
(目)	初等中等教育振興事業委託費	203	228	重要政策推進枠 105百万円			
(目)	諸謝金	1	1				
(目)	委員等旅費	1	1				
(目)	職員旅費	1	1				
(目)	教職員研修費	0	0				
(目)	その他	0	0				
計(A)		206.2	231.2				

活動内容① (アクティビティ)	グローバルな社会課題解決や文理横断的な内容を学ぶカリキュラムの編成・開発により、より高度な内容を学びたい高校生のための環境整備等を行い、幅広い教養や問題発見・解決能力等の国際的素養を身に付け、将来、新たな社会を牽引し、世界で活躍できるビジョンや資質・能力を有したイノベティブなグローバル人材を育成する。								
↓									
活動目標及び活動実績 ① (アウトプット)	活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込
	カリキュラム開発拠点校におけるグローバルな社会課題解決や文理横断的な内容を学ぶカリキュラムの開発による環境整備	カリキュラム開発拠点校の拠点校数	活動実績	校	16	22	17		-
			当初見込み	校	16	22	17	17	-
↓	成果目標①-1の 設定理由 (アウトプット からのつながり)	対象生徒のPPDAC(探究型行動)達成度の向上を指標とすることにより、カリキュラム開発拠点校におけるグローバルな社会課題解決や文理横断的な内容を学ぶカリキュラム開発の進捗を測る。							
成果目標及び成果実績 ①-1 (短期アウトカム)	成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 6年度	
	対象生徒のPPDAC(探究型行動)達成度の向上	対象生徒のPPDAC (ProblemPlanDataAnalysisCo nclusion)(課題解決のための フレームワーク:探究型行動) の達成度	成果実績	%	73	88	86	-	
			目標値	%	-	-	-	80	
			達成度	%	-	-	-	-	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績	令和2年度WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム構築支援事業 事業完了報告書 令和3年度WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム構築支援事業 事業完了報告書 令和4年度WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム構築支援事業におけるEBPMIに向けたデータ収集・分析、効果検証等のための調査報告書(履修10ヵ月以上経過後調査)								
↓	成果目標①-2の 設定理由 (短期アウトカム からのつながり)	委託期間における対象生徒のPPDAC(探究型行動)によるカリキュラム開発の後、グローバルな社会課題解決や文理横断的な内容を学ぶカリキュラムの進展、普及活動につなげる。							
成果目標及び成果実績 ①-2 (中期アウトカム)	成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 7年度	
	カリキュラム開発委託期間(3年間)終了後のグローバルな社会課題解決や文理横断的な内容を学ぶカリキュラムの進展、普及活動の継続	カリキュラム開発委託期間終了後もカリキュラムの進展、普及活動を実践している拠点校数	成果実績	校	-	-	7		
			目標値	校	-	-	7	33	
			達成度	%	-	-	100		
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績	令和4年度WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム構築支援事業におけるEBPMIに向けたデータ収集・分析、効果検証等のための調査報告書 ※令和元年度から開始の委託事業(3年間)のため、成果指標は令和4年度以降となります。								
↓	成果目標①-3の 設定理由 (長期アウトカム へのつながり)	カリキュラム開発委託期間(3年間)終了後のグローバルな社会課題解決や文理横断的な内容を学ぶカリキュラムの進展、普及活動の継続により、幅広い教養や問題発見・解決能力等の国際的素養を身に付け、将来、新たな社会を牽引し、世界で活躍できるビジョンや資質・能力を有したイノベティブなグローバル人材に育成につなげる。							
成果目標及び成果実績 ①-3 (長期アウトカム)	成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 -年度	
	全国の高等学校等において、イノベティブなグローバル人材を育成する環境が整う。		成果実績		-	-	-	-	
			目標値		-	-	-	-	
			達成度	%	-	-	-	-	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績									
アウトカム設定について の説明	アクティビティ①について定性的なアウトカムを設定している理由								
	本事業の目的は、幅広い教養や問題発見・解決能力等の国際的素養を身に付け、将来、新たな社会を牽引し、世界で活躍できるビジョンや資質・能力を有したイノベティブなグローバル人材を育成することであるが、長期的な評価が必要なため、定性的なアウトカムを設定している。なお、初期アウトカム・中期アウトカムにおいて、事業の成果を評価することとしている。								
	アクティビティ①についてアウトカムが複数設定できない理由								

<b>活動内容②</b> (アクティビティ)	高等学校等と国内外の大学、企業、国際機関等が協働し、高校生の高度な学びを提供する仕組み(ALネットワーク)を形成し、高校生が個人の興味・関心・特性に応じて、高度かつ多様な科目内容を履修可能とする学習プログラムに参加することができるWWLコンソーシアム構築を目指す。								
↓									
<b>活動目標及び活動実績②</b> (アウトプット)	活動目標	活動指標	/	単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込
	カリキュラム開発拠点におけるALネットワークの整備	高校生の高度な学びを提供する仕組み(ALネットワーク)を形成しているカリキュラム開発拠点校数	活動実績	校	-	-	17		-
			当初見込み	校	-	-	17	17	-
↓	成果目標②-1の 設定理由 (アウトプットからのつながり)								
<b>成果目標及び成果実績②-1</b> (短期アウトカム)	成果目標	定量的な成果指標	/	単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 6年度	
	ALネットワークの拡充	ALネットワークに参加するカリキュラム開発拠点校、拠点校、共同実施校、国内連携校、海外連携校の合計数	成果実績	校	286	376	397	-	
			目標値	校	-	-	-	420	
			達成度	%	-	-	-	-	
<b>成果実績及び目標値の根拠として用いた統計・データ名(出典)/定性的なアウトカムに関する成果実績</b>	令和2年度WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)カリキュラム開発一覧表 令和3年度WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)カリキュラム開発一覧表 令和4年度WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)カリキュラム開発一覧表 ALネットワーク・・・「管理機関」の下に、「拠点校」を中心として組織されるネットワーク。「国内大学」、「海外大学」、「国内連携校」、「海外連携校」、「国際機関」、「NGO」、「企業」等のステークホルダーから構成される。将来的に、WWLコンソーシアムへつなげることを目指す。								
↓	成果目標②-2の 設定理由 (短期アウトカムからのつながり)								
<b>成果目標及び成果実績②-3</b> (長期アウトカム)	成果目標	定量的な成果指標	/	単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 8年度	
	WWLコンソーシアムの構築	WWLコンソーシアム構築に関連して全国、地域で開催される連携会議、フォーラム等(ALネットワーク内含まず)に参加した学校数	成果実績	校	-	-	-	-	
			目標値	校	-	-	-	200	
			達成度	%	-	-	-	-	
<b>成果実績及び目標値の根拠として用いた統計・データ名(出典)/定性的なアウトカムに関する成果実績</b>	令和5年度WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)事業(幹事管理機関)(地域ALネットワーク構築のための委託事業)事業完了報告書 ※令和5年度から調査を開始しますので、成果指標は令和5年度以降となります。 WWLコンソーシアム・・・高度かつ多様な科目内容を、生徒個人の興味・関心・特性に応じて履修可能とする高校生の学習プログラムの開発と実践を担うコンソーシアム(共同事業体)であり、ALネットワークの集合体である。								
<b>アウトカム設定についての説明</b>	アクティビティ②について定性的なアウトカムを設定している理由								
	アクティビティ②についてアウトカムが複数設定できない理由								
<b>事業に関連するKPIが定められている閣議決定等</b> 該箇所	名称								
	URL								
	該箇所								





**資金の流れ**  
 (資金の受け取り先が  
 何を行っているかにつ  
 いて補足する)  
 (単位：百万円)

費目・使途	A.			B.		
	費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費			8.1	人件費		15
消耗品費			1.7	一般管理費		1.7
人件費			1.6	消費税		1.5
その他			2.1	その他経費		0.8
計			13.5	計		19

費目・使途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載  チェック

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	国立大学法人筑波大学	5050005005266	WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム構築支援事業	13.5	随意契約(企画競争)	20	100%	—
2	国立大学法人広島大学	1240005004054	WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム構築支援事業	9	随意契約(企画競争)	20	100%	—
3	学校法人中村学園	7290005001256	WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム構築支援事業	9	随意契約(企画競争)	20	100%	—
4	長崎県	4000020420000	WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム構築支援事業	9	随意契約(企画競争)	20	100%	—
5	宮崎県	4000020450006	WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム構築支援事業	9	随意契約(企画競争)	20	100%	—
6	奈良県教育委員会	1000020290009	WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム構築支援事業	9	随意契約(企画競争)	20	100%	—
7	国立大学法人大阪教育大学	2122005002494	WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム構築支援事業	8	随意契約(企画競争)	20	100%	—
8	国立大学法人東海国立大学機構	3180005006071	WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム構築支援事業	8	随意契約(企画競争)	20	100%	—
9	岡山県	4000020330001	WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム構築支援事業	8	随意契約(企画競争)	20	100%	—
10	国立大学法人愛媛大学	9500005001934	WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム構築支援事業	8	随意契約(企画競争)	20	100%	—

B.

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	株式会社リベルタス・コンサルティング	4010401058533	WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム構築支援事業におけるEBPMIに向けたデータ収集・分析、効果検証等のための調査研究	19	随意契約(企画競争)	2	100%	
支出先上位10者リスト欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙3】に記載							チェック	